日野川の源流と流域を守る会

会報

ひのがわ

第39号

【日野川フォトコンテスト２０２０スマホ部門応募作品】
題　名：憩　い
撮影者：長谷部　崇樹 氏

＝目　次＝

●日野川源流探訪…… 2～3
●森林整備体験＆サクラソウ保全活動視察
　＋若松川自然観察会…… 4
●日野川の風景・魅力再発見ツアー …… 5
●森と水に親しむ活動支援団体の紹介 …… 6
●幹事の部屋／会員の部屋…… 7
●ご案内、会員募集 …… 8

日野川源流探訪

源流の碑を目指して

源流探訪で出会った動植物たち

アケボノソウ

アサギマダラ

日野川のはじまりに出会う

私たちのそばにいつもある日野川。その流れを日々、目にすることはあっても、はじまりの場所を訪れた方は少ないのではないでしょうか？

源流探訪では、日野川の自然、歴史、植物、野鳥に詳しい各講師の解説を聞きながら、全長77キロメートルに及ぶ日野川がはじまる場所を目指しました。

沢を渡り、ぬかるみを越え、急坂を上って源流にたどり着いたとき、参加された皆さんは何を思われたのでしょう。

「自分たちの飲む水の源まで歩いて行くことができた。」

「日野川のかつての姿とその変遷を知り、愛着が深まった。」

「春や夏の姿も見に訪れてみたい。」、等々

源流の碑が立つ場所で、参加された皆さんの心に湧きあがった想い。それは日野川の存在に対する畏敬の念であり、そこでしか味わうことのできないものだったはずです。

私たちは、今回の探訪で心に湧きあがった想いを忘れず、日野川の自然・環境を守り、きれいで豊かな流れを後世に残していくための活動を続けてまいります。

探訪中は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策のため、フィジカルディスタンスの確保と必要に応じたマスク着用、写真撮影時のマスク脱着をお願いしました。

矢田貝講師

藤原講師

坪倉講師

達磨講師

各講師の解説により、日野川の自然、歴史、植物、野鳥について学びました。

	開　催　日	講　師	参加者数
第１回	令和３年10月 ９ 日㈯	講師：矢田貝　繁明 氏 （大山自然歴史館館長）	５名
第２回	令和３年10月16日㈯	講師：達磨　晋 氏 （日本野鳥の会鳥取県支部）	６名
第３回	令和３年11月 ６ 日㈯	講師：坪倉　敏 氏 （樹木医、森林インストラクター）	８名
藤原自然保護監視員が植物分野講師としていずれの回にも参加			

※今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、少人数での開催に変更し、10月から11月の間、３回に分けて実施しました。

森林整備体験＆サクラソウ保全活動視察＋若松川自然観察会

好天に恵まれた令和３年１０月２日（土）、日野川の源流と流域を守る会の会員８名にご参加いただき、森林整備体験や自然観察会を開催しました。

森林整備体験では、森林が持つ治山・治水機能、動植物の生息環境、空気の浄化などを森林の保全作業を通じて学ぶとともに、サクラソウ保全活動視察では、希少野生植物の保護の取組について認識を深めていただきました。

また、若松川自然観察会では、日野川上流域を散策しながら自然の豊かさを実感していただきました。

①森林整備体験（日南町神福）

日南町神福にあるヒノキ林（40年生）で、未成熟の木や間隔を空けて成長を促すための間伐や、伐採した木を利用した枝打ち体験を行いました。

良い木材を育てるための間伐や枝打ち等の手入れの重要性を学ぶとともに、講師（栩木建明氏）から、40年育てたヒノキの価格が１本1,000円程度にしかならないという憂うべき現状もお聞きしました。

【参加者の声】
- 木を育てることは、手がかかり大変だと良く理解できた。
- 森林は、水を貯え、日野川に水を供給しているので守っていきたい。
- 森林浴の中、気持ちいい汗を流すことが楽しかった。

神福作業林

②サクラソウ保全活動視察（日南町神福）

福栄さくらそうを守る会が保全活動を行っている神福で、サクラソウの魅力、自生地の保全活動の大変さ、自生地を守り続けるための今後の取り組みについて学びました。

【参加者の声】
- 来年サクラソウの花が咲いている時期にまた訪れたい。
- 水害などからサクラソウを保全する大変さを学び、この活動に自分もお手伝いできればという思いが湧いた。

神福サクラソウ自生地

③若松川自然観察会（日南町湯河）

日南町湯河にある若松川沿いで若松滝を目指しながら自然観察会を実施しました。

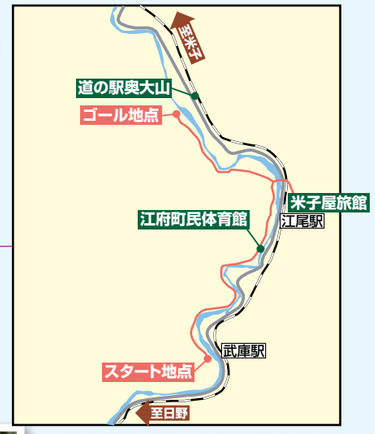
若松川の急峻な地形が生み出す小さな滝や川の流れで形成された地形観察などを楽しんでいただいたり、野鳥の声や生態について講師（達磨晋氏）から解説いただきながら川沿いを散策しました。植物の観察など貴重で楽しい自然観察会になりました。

【参加者の声】
- 若松滝が勇壮で美しかった、また来てみたい。
- 野鳥のさえずりや川の音で癒された。
- 珍しい植物やチョウを目の当たりにし、貴重な体験ができた。

若松滝

日野川の風景・魅力再発見ツアー

秋深まる令和３年１１月２０日（土）、日野川の源流と流域を守る会の会員１０名にご参加いただき、江府町の日野川左岸沿い（洲河崎橋～鉄穴（かんな）橋）を野鳥と写真スポットを探して散策しました。



『日野川をいつもとは反対に対岸側から見たら違う世界が広がるかもしれない。』、「紅葉の時期の美しい風景を見ていただきたい。」、「秋には日野川の川面に水鳥もやってくるので、野鳥観察と写真塾を実施したら会員の皆様に喜んでいただけるのでは。」という想いで開催しました。

晴れた日は大山が望めます。

「カワアイサが泳いでいますよ。」「えー、どこ、どこ？」

江尾発電所跡

植物はこう撮るのですね。

歩いた後のお楽しみ米子屋旅館さんで昼食です。

地面を撮影？ではなくて、クサカゲロウでした。

江府町イチョウ並木

【参加者の声】
- 普段何気なく見ている鳥について説明があり、わかりやすかった。
- 歩きながら植物の説明を聞くのも楽しかった。
- 写真の先生もアドバイスや質問に答えてくださり良かった。
- 久しぶりのツアー参加で、歩くのもゆっくりでとても良かった。
- 参加者の方々も色々なことを教えてくださり、とても勉強になった。

森と水に親しむ活動支援団体紹介

将来を担う子どもや流域住民の方々に様々な体験を通して、日野川流域の森や水辺の自然環境、歴史文化などに対する理解を深める活動をされている二つの団体の取組を支援しました。

【日野川の自然と歴史を知る会】～日野川支流の魅力発見、自然観察会～

奥大山エリアにスポットを当て、流域の豊かな自然に触れ知っていただくイベントを企画され、令和３年11月13日（土）に実施されました。

当日は１０名の方が参加し、日野郡江府町の紅葉の名所である鍵掛峠から御机までの落ち葉のじゅうたんの古道を歩いたり、鏡ヶ成湿原観察と保全活動の視察、木谷沢渓流の散策等をされました。

参加者の皆さんは、同行の現地ガイドの解説に興味深く耳を傾け、鏡ヶ成湿原では、散策を通じて湿原保全を知ったり、日野川支流の船谷川上流部に位置する木谷沢の豊かな自然の景観を楽しまれました。

奥大山古道散策

象山散策

【参加者の声】
- 特に大山古道ガイドさんの説明が良かった。
- 楽しい秋の大山を満喫することができた。

【伯耆国たたら顕彰会】～幻の「都合谷鉄穴（つごうだに かんな）」を探せ！現地踏査～

県指定史跡「都合山たたら跡」近く、日野川支流の都合谷川に沿ったエリアに「鉄穴場」があったことは近藤家文書にも明確に記録されていますが、これまでその場所が確認できず、「幻の鉄穴場」となっていました。そこでたたら研究の専門家、島根県古代文化センター長の角田徳幸さんの指導を得ながら、「宝探し」のイメージでその現地を調査、確定するイベントを令和３年12月４日（土）に開催され、18名の参加がありました。

参加者の皆さんには、都合谷周辺の地形や自然、人々が工夫を凝らして、かつて大規模に行われた鉄穴流しの仕組みなどについて、角田さんによる解説も行われ、こうした調査研究の醍醐味や楽しさをたっぷり満喫できるイベントとなりました。

幹事の部屋／会員の部屋

日野川の源流と流域を守る会の幹事及び会員を紹介します。

「日野川の源流と流域を守る会との関わり」

幹事　矢田貝　繁明

ショウキラン

私は、「日野川の源流と流域を守る会」が設立された当初から、源流探訪や観察会に関わってきました。初めて「源流と流域を守る会」として源流域を訪れたのは、現在の「源流の碑」が設置されている場所ではなく、水田の広がっている「土屋」でした。大型バス数台で新屋地区まで行き、そこから現在では通行止めとなっている日野川に沿った道を歩きました。参加者も100名以上と多いため、数班に分かれて「土屋」を目指しましたが、途中で自分の班からはぐれて迷子になる人も出ました。お昼ご飯の時に「ロシアの源流の水」を飲んで、帰路では足下がふらついている人も見かけました。多くの参加者の皆さんが遠足気分で楽しんでおられました。その後は、参加人数を少なくして、現在の「源流の碑」が設置されている、河口から一番遠い場所にある源流を訪れるようになりました。私は、ほとんど毎年のように「源流の碑」まで行きますが、季節に応じて様々なものが観察できます。米子市水道局の皆さんと訪ねた際には、鳥取県西部地区では希少な「ショウキラン」が咲いていたり、珍しいキノコのキイロスッポンタケを見ることができました。

今年の秋も10月上旬に「源流の碑」まで皆さんを案内しました。天候にも恵まれ、秋晴れの暖かい日でした。現在では、源流までの道も整備されて、歩きやすくなったり以前よりかなり安全に歩けるようになりました。10月上旬であったため、花は少なく、流れの中で泳いでいるイワナを見るくらいでした。「源流の碑」に着いて倒木に腰をかけて話をしながらお昼ご飯を食べていると、水の中で動くものがいました。流木や落ち葉の中を下流に向かって動いて行ったので、後を追うと「カワネズミ」でした。水量がほとんど無くエサになるものも少ない場所に「カワネズミ」が生息しているのには驚きました。「カワネズミ」も鳥取県では、絶滅危惧種になっています。水辺に生息していて潜水し、水生昆虫やサカナなどを補食しています。子どもの頃にはよく目撃していましたが、最近では見かけることが希な生き物です。今年の源流探訪では、久しぶりに珍しい動物に出会い、楽しい一日が過ごせました。

「日野川源流探訪に参加して」

会員　稲田　　耕

土木工事を生業とし、この日野川をテリトリーに活動しているものとして「一度は日野川の源流を訪ねておかなければならないな」と常々思っていました。急きょ思いつき、３～４日前に事務局に申し込み、このイベントに参加しました。

当日参加者は６名、スタッフの方４名、少し空模様を心配しながらのスタートでした。

見覚えのある窓山林道から、いくつかの作業道を経ていよいよ歩きが始まります。

藤原自然保護監視員さんの、珍しい草花の解説を受けながら（本来なら日本野鳥の会の達磨さんの解説を受けるところでしたが、なにぶん鳥が鳴かないので）作業道をゆっくり上っていきます。途中から道が狭くなり、いかにも源流探訪という雰囲気の中を進み、30分ほどで源流の碑に到着しました。沢が二股に分かれ中央に巨石が鎮座し、その袂に記念碑が建っています。お昼に源流で入れた珈琲をいただき、天候の具合もあり早めに下山となりました。わずか１キロも下らないうちに途中の沢が集まってきたのでしょう、急に水音が大きくなり、山女魚の姿も見受けられるようになり、本当に川らしくなってきたことに感心しました。たかだか70キロ余の間に幾多の支流を寄せ集め、あのように（決して大河とは言えないまでも）堂々として日本海にそそぐ川になる。その源が、ともすれば所々姿が消えてしまうような、心もとないせせらぎだということに一種の愛おしさと感動を覚えました。ふもとまで降りると、待ちかねたようにぽつりぽつりと雨が落ちてきました。何かしらすがすがしく、少しパワーを日野川から分けてもらったように感じた一日でした。

日野川の源流と流域を守る会からのご案内

【会員の皆様へお知らせします】

令和4年分の会費納入について

同封の払込用紙により、最寄りの金融機関（山陰合同銀行、鳥取銀行、ＪＡ鳥取西部）の各支店（支所）の窓口で２０２２年３月末までに納入いただきますようお願いします。

※年会費は法人・団体は１口５，０００円、個人は１口１，０００円です。

（鳥取銀行、ＪＡ鳥取西部では、振込手数料は無料。山陰合同銀行を利用されますと所定の手数料がかかります。）

日野川の源流と流域を守る会

会員 大募集中!

当会の活動は会員の皆さんに支えられています。

「日野川を日本一美しい川」にするため、日野川の源流と流域を守る会の活動に参加しませんか？

当会の活動に興味をお持ちの方は、入会手続きや会費などについて、事務局までお気軽にご相談ください。

〔お問い合わせ方法〕

・Eメール･ファクシミリ
常時受付･内容確認後に返答させていただきます。

・電話
月～金曜日　８：30～17：15（年末年始、祝日等除く）

日野川流域憲章

【前文】

私たちは悠久の時の流れの中で、多くの恵みをもたらしてくれた日野川、その流域のすばらしい自然･環境を守り、日野川の清流化に向けて活動します。

日野川はたくさんの動植物の生命を育み、たくさんの人たちの生活も支えてくれています。

また、日野川流域には伝統ある生活文化・芸術が育まれています。

私たちは日野川の歴史・自然を学び、よく理解して、より豊かできれいな日野川の流れを後世に残すために、みんなで力をあわせて活動します。

そのために、ここに「日野川流域憲章」をつくり、多くの人たちの参加・協力をよびかけます。

【日野川流域憲章の理念】

・日野川流域の自然・環境を守り、川と私たちとのすばらしい共存に努めます。
・日野川のきれいで豊かな流れが、いつまでも続くように美しい緑の森を守り、育てるように努めます。
・日野川流域の交流・連携をすすめます。
・日野川流域の歴史・生活文化を学び、その知識を次世代に引き継ぐように努めます。
・日野川流域に培われてきた、さまざまな価値ある魅力を大切にして、継続的な地域の発展に努めます。
・日野川流域を愛する人たちの輪が広がるように努めます。

平成20年８月23日
日野川流域憲章制定実行委員会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、昨年度に続き今年度も計画どおりの事業実施が難しい状況が続きましたが、紙面で報告させていただいた各事業については、感染状況が落ち着き始めた頃に、参加人数を10名までに制限するなど感染防止対策を徹底したうえで実施させていただきました。そのため、ご希望に添えなかった皆様には改めてお詫びいたします。

今後も、新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら、今年度の活動で気づくことのできた少人数開催のメリットなども踏まえ、皆様に参加いただけるより魅力的な事業を企画いたしますので、引き続きよろしくお願いいたします。

（事務局一同）

◆ 発行日　令和３年12月22日 ◆ 発行者　日野川の源流と流域を守る会　（事務局：鳥取県西部総合事務所日野振興センター日野振興局）TEL. (0859)-72-2080　FAX. (0859)-72-2072　Eメール. hino-shinkou@pref.tottori.lg.jp